

平成27年度第4回島根県企業局経営計画評価委員会

日 時 平成28年2月8日(月)

14:00～16:00

場 所 島根県職員会館 健康教育室

○委員長

皆さん、こんにちは、よろしくお願いします。今日は、今御紹介いただきましたように報告事項と、そしていよいよ島根県企業局経営計画の最終案の議論をしていただくことになってございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、会議の運営につきまして確認をさせていただきたいと思います。本日の会議につきまして公開の会議にしたいと考えますが、委員の皆さん、よろしいでしょうか。(異議なし)

それでは、次第に従いまして会議を進めます。

議事(1)、報告事項について、事務局から説明をお願いします。

[事務局説明]

○委員長

ありがとうございました。ただいま説明のあった報告事項について、御質問等をお願いします。はい、どうぞ。

○委員

安来、浜田への応援ですけれども、これは要請があって配布されたものですか、それとも自主的に。

○委員長

はい、どうぞ。

○企業局

失礼いたします。こちらのほうは、県の防災部を通じまして要請がございまして、各市のほうから、それで私どものほうから提供させていただいております。

○委員長

そのほか、ありますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、御意見がないようですので、次の議題に入らせていただきます。

議事(2)、島根県企業局経営計画(案)について、事務局から御説明をお願いします。

[事務局説明]

○委員長

ありがとうございました。これまで3回にわたり、県企業局の次期経営計画について議論を進めてまいりました。いただいた意見を反映して、今回の計画(案)の提示に至るところでございます。全体を見て、何か御意見はございますでしょうか。今回、写真、図、語句の解説など非常にわかりやすい構成にさせていただいているところでございます。これはホームページ上にあとは、最終ではPDFか何かダウンロードか何かできるようにするような形にされるわけですか。

○企業局

最終これで決定いたしますと、PDF化しましてホームページのほうに載せたいと考えております。

○委員長

ありがとうございます。それでは、委員(以下順に)何か御意見等ございましたらお願いいたします。

○委員

そうですね、電気事業については繰り返しになりますけれども、今の説明で32年度以降利益が出ると、それから内部留保金も増加するということでございますので、この利益を幅広く恩恵が受けられるように各方面と協議をお願いしたいと思います。

それから、水道用水供給事業と工業用水道事業については、目標の数値、受水率とかの目標の数値を引き続きの努力によって達成してほしいと思います。特に工業用水道事業については財政的に若干の不安もありますので、これまでどおり緻密な努力を続けられて収入をふやす方策、あるいは支出を減らされる工夫を引き続きしていただくということが必要ではないかなというふうに思っております。以上です。

○委員長

ありがとうございました。よろしゅうございますか。それでは、お願いします。

○委員

もう細かいところは、いろいろ私も会議に余り出てないもんで申しわけなくて、議事録での参加しちよつとしてないもんですから、余り細かい指摘はいたしません。皆さんのおっしゃるとおりだという感触を持っています。

それで、ちょっと今日気になったのが経済情勢の中で、これ10年間の計画にしてはちよつと短観的過ぎるんじゃないかなという気がするんですが、その辺はどうなんでしょうね。

○委員長

ちよつと、中国経済の原則、原油価格の下落、そういう。

○企業局

おっしゃる点は確かにあるかと思うんですが、基本的に将来的な経済情勢を見越して当然、計画つくるっていうのが基本ではございますけれども、今ちよつとどういう状況が起きてるかというところでこの取り巻く情勢っていうのは押さえていただいております、その中で言うとなかなか我々も経済の専門家ではございませんので、現状を踏まえたところで今後10年の各事業の取り組みをちよつと実は検討させていただいたところでございますので、御指摘の点はございますけれども、そういったことで御理解いただければと思います。

○委員長

ありがとうございました。

○委員

結構でございます。

それと、あんまりもう直すところではないんですけど、最後なもんですから少しちよつと私なりの考えを言わせていただくと、一つこの公営企業たる部分として当然地域住民の福祉向上という大きな目的があるわけですけども、その中にもやはりここでは地域社会の発展に寄与という言葉を使っておられます。一つは今、昨今、増田レポートにもあるように、生き残れる自治体が本当にいわゆる消滅自治体と言われるところが数多くあって、この山陰側でも島根はもう20万を超す都市が

本当になくなって、核になるようなそういう都市もないわけでございますので、やはりそこを支えていくのがやっぱり公営企業の役割の1つになってきて、それでやはり公営企業の下支えがあって産業集積が図れて、そこに人々がやっぱり住まい寄り添っていくようなスタイルっていうのが一つ構築されると思うので、やはりそういった、計画はこれでいいんですけどそういった大きな視点の中でこの計画というものを運用、運営していただきたいなっていうのは、極めて個人的なこれからのこれを使うに当たっての意見として受けとめていただきたいなと思うところです。

○委員長

ありがとうございました。じゃあ、よろしく願いいたします。

○委員

失礼します。これだけの計画をつくられて、大変な御苦労だったと思います。私もなかなか難しいことがわからないんですが、初めての参加でしたので、ただ、この策定に参加させていただいて、ふだん何げなく使っている水や電気がどのようにつくられているかとか、どれだけ経費が要るか、また企業局の皆さんのお仕事とかいうものがある程度わかった気になっております。大きな施設になるのがあり、修繕の経費等大変なものだと思いますが、水や電気がとまってしまうと私たち住民は本当に困ってしまいます。今回の計画にありますように、計画的に修繕をしていただいて安定供給に努めていただきたいと思います。

それから、これまでの会議とか今回のところでも出ておりますけども、見学ツアー、私、今回初めて参加させていただいて、とても感心いたしましたし勉強になりました。主婦的な感覚でいいますと、もっと私たち主婦などがこういった水とか電気のことについて知らなくてはならないと思いますけども、そのためにはこの見学ツアーというのはとても有効な手段だと思いますので、これからもいろんな企画をされるということですので、たくさんの方が参加されることを期待したいと思います。ちょっと感想になってしまいましたが、以上です。

○委員長

ありがとうございました。それでは、お願いします。

○委員

失礼します。今回のこの計画なんですけども、投資というリニューアルが事業として計画されていて、やはり今、政府もいろいろ言っていますけども、民間の設備投資を促進してほしいっていうようなことも言ってます。やはり全体的に設備が老朽化してきているということも言われてる中でして、やはりこれから持続可能な事業という視点から、一定程度必要なものについては幅広く設備投資、更新投資を行っていただいたほうが効率が上がるとか、新しいものによってより長寿命化が図れると、こういう視点もぜひ入れて検討していただきたいと思いますというふうに思います。

それからもう一点ですけど、12ページにちょっと記載をしていただいているんですが、この中で目指す方向の①、②、③、④ってあるんですけど、この3番目の小水力発電所という言葉が出てまいります。これについて、計画としてこうした方向性を明示されるということについては特段問題ないと思いますが、この具体的にちょっとイメージが、小水力発電所の新規開発というのがどのようなものか、想定イメージとして何となくこういうものだということがもしあれば少しお尋ねできればということと、それと、その技術支援とございまして、技術支援するということは企業局さん自身ということではなく、民間企業なのか、団体なのか、組合なのかちょっとわかりませんが、何かそういったお考えが何かおありなのか、その背景のところ少し、もし何か御説明がいただけるのであればちょっとお聞かせいただければと思います。お願いします。

○委員長

よろしく申し上げます。

○企業局

今、御質問のありました小水力発電所と、それから技術支援についてでありますけども、この技術支援につきましては小水力発電で企業局以外、例えばJAさんですとか、雲南市さんですとか、各市町で運営をしておられる小水力発電所がございます。これも同じように老朽化をしております、それこそ廃止の危機といいますか、FITという制度があるまではもうほとんどが廃止の方向に向いておりました。それが、再生可能エネルギーを拡大しようという声の中で、こういうFITという大きなチャンスがあって、これについて、じゃあもう一回市町で、あるいはJAで取り組みが継続できるかというふうなところ、技術的に企業局に対して要請をされたというところで、可能性、それから採算性も含めてうちのほうで御指導したというところが、この技術支援でございます。現に9カ所について技術支援の要請がございまして、既に2カ所は運転を開始しておりますし、もう1箇所、安来市についても近々運転を開始するような運びになってきております。

それから、企業局で行います小水力発電ですけども、水力発電についてはベースロード電源の一つということで拡充拡大が叫ばれておりますけども、なかなか新規で大きなといいますか大規模な水力開発というのは、もう全てやり尽くされてるといふか、なかなか適地がないのが実情です。そうした中で、小水力で既存の例えば砂防堰堤を使うだとか、そういったところで少しでも拡大につなげるところがあればということで、27年度から可能性の調査をしつつ、28年度にはある程度めどをつけて取り組んでいくというのが今の小水力の新規開発の動向でございます。

○委員

大変よくわかりました。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。それでは、お願いいたします。

○委員

大変わかりやすい資料を提供してくださって、ありがとうございます。私も素人で、何が何かわかりませんが、何回か参加してうちにエネルギーのありがたさ、そして見学に行かさせていただいたので、もう本当に皆さんの努力とか、それから資源の大切さを感じさせられました。

それで、もう皆様もおっしゃってらっしゃるんですけども、私も見学ツアーとかいうのは大変すばらしい取り組みだと思いますので、それが小さい子供さんたちにも、小学生の方からも理解していただけるというような取り組みを学校にPR、小学校とか中学校にPRして機会を見てそういう取り組みをされたらいかがかなと思います。

それから、私がちょっと気になったのが、リニューアルをたくさんされますけども、これはもうそのリニューアルしてる間の子の電力はちゃんと賄うようにできてるんですね。足りないってことはなくて、もうそれをリニューアルしながらそれに見合う量が供給できるということで理解させていただいてよろしゅうございますでしょうか。

○企業局

うちのほうの発電自体は財政状況でも御説明しましたとおり、発電量が減ることは停止しますので明らかですけれども、皆様の御家庭に供給する電気につきましては、いわゆる中国管内、中国電力さんが全体的なバランスをとっておられますので、決してその分が減ったから急に停電するとかってことはございません。

○委員

済みません、変な質問で。

○委員長

どうぞ、お願いします。

○委員

1月末の寒波の対応、本当にありがとうございました。市民としてはこういう災害が起こったときの状態が非常に心配でございまして、皆様方がきちっと対応してくださって、ありがたいなど改めて感謝申し上げます。それで、56ページの取り組みの成果指標なんですけれども、数字にあらわれない御説明をしてくださったので安心したんですが、この中には経営計画の中には入れなくてよろしいんですが、代々事務の担当の方に先ほど御説明くださったような内容を申し送りっていますか、していただいたらありがたいなと思いました。以上でございます。

○委員長

ありがとうございました。お願いします。

○委員

企業局の主な事業の柱としては、電力と水道、工業団地とその3本柱があるんですが、このうち電力については4月から小売の自由化と、いよいよ電力の自由化が本格的に始まるわけですが、一方で、水道のほうも今は公営で全部やってるんですけども、一方で広域化という流れが今出ていまして、どこかの県ではもう水道を県全体で一本化するというような動きも一部出ていまして、それで、この水道事業の広域化ということで、いろいろ検討はされていると思うんですけども、今回の経営計画を見る限り、そういう広域化に特化した文面はまだはっきり見えてないということで、今回の計画にそういった広域化を盛り込めとは言いませんけども、どっかでこういう広域化についてもやっぱり頭に入れておく必要があるなと思ってます。

それで、広域化となりますと、当然市町村の受水団体との協議も、調整も必要となってくるわけですが、やはりこれからどんどん人口が減っていくと、その一方で施設の老朽化に伴って更新費用もふえていくと。そうした長期的スパンに立てば、やはりある程度広域化によって効率化をしていくという視点も長期計画には必要になってくるかなとは思ってます。水道の場合やはりもう生活必需品ですから、そういった公共財として見る場合に、いかに持続的に安定供給していくか、それでそのための経営体制をどう構築していくかということが必要になってくると思ってます。

それで、もう少し細かい話をしますと、受水団体、これは市町村なんですけども、このうち簡易水道の統合という問題が今出てきてまして、簡易水道っていうのは非常に効率が悪くて、経営面ではなかなか独立採算は困難だということで、これまで国から大幅な補助金が出ていて、それで何とか料金を抑えていたんですが、今回、簡易水道の統合という問題が出てきて、その財政をどうするかということでいろいろ厚労省、総務省と関係自治体が協議をした結果、一応これまで高い料金についての補助金については維持しようということで一件落着はしたわけですけども、しかしそうはいつでも引き続き受水団体の経営状態っていうのは、非常に、かなり厳しい見通しであると。そうなるとどうしてもやはり広域化という視点で経営を効率化していくことが長期的な課題かなと思ってます。

それからもう一つは、先ほど電力自由化というお話をしましたけれども、これは電力事業に競争を導入して競争原理を働かせて独占を崩していくと、いわばマーケットの原理を導入するということなんですけども、水道の場合は今はまだ自治体が独占をしているわけですが、これも経営の効率化にかかわるんですけども、民間委託というか民間でできるものは民間にできるだけ任せていくと、いわば

包括的なコンセッションといえますか、そこら辺の視点も必要だというふうに思ってます。以上、意見です。

○委員長

ありがとうございました。何かありますか。

○企業局

じゃあちよつと、広域化の観点のことだけちよつと補足といえますか、現時点の考え方ということで。現時点で大きなものとしてのちよつと広域化の検討自体は始まってないというか、進んでないような状況です、私どもの企業局に関係しますところでいいます。しかしながら、今、委員御指摘のとおり、国のほうではそういった視点、今度の水道法の改正も含めましたそういった議論が進んでいることは承知いたしております。したがって、私どもも全県で用水供給事業やってるわけではありませんが、供給しているところは県人口の約4割が給水人口に当たるわけですから、それでも大きなロットを占めているわけですから、御指摘のようなことも含めて県のいわゆる水道の事業の認可を持つる部局、あるいは市町村の財政を担当している部局なんかも含めて今後議論をしていくものと考えているところでございます。

それからあと、電力の自由化の絡みでの市場原理のところ、水道はなかなかその辺までのところが今後どうなるのかが見えないんですけど、電力につきましては、今度4月からは小売の自由化ということが実際起きておりまして、いろんなところがいわゆる販売競争が始まるところであります。先ほど電気がとまらないということで中国電力さんっていう言い方をしたんですけども、実は今度中国電力さん以外からでも電気を売ることができて、買うことができるような関係性が出てきますので、そういった中で、先ほど委員の言葉ですと市場原理が働いてよりよいサービスに向かっていく分があるかなというふうには考えておりまして、私ども企業局も電気を供給する立場を持っておりますので、いかにそういったところも安定的にできるかっていうことを考えて運営していくものと考えているところでございます。

○委員長

ありがとうございました。

島根県企業局経営計画(案)、最終案でございますが、皆さん何か、もう一度このことを御指摘したいとか追加したいとか、御訂正したいとかっていうような御意見あればお願いしたいんですが、いかがでございましょう。

よろしゅうございますか。まずまず原案のとおり、これを最終案としてお認めいただくっていうことでよろしゅうございますか。

はい、それでは、これをお認めいただいたということにさせていただきます。

それで、この際ですので、今度はこちらも含めて今後の企業局業務運営全般にわたることで結構ですので、何か御意見等ございましたらもうフリートークでお願いしたいと思います。

もう一度ちよつと、何か追加、何でも結構でございますので、これに限らず企業局全般について。

○委員

特にはありません。

○委員長

特にありません。

○委員

はい。

○委員長

ありがとうございました。それでは、委員、何かございましたら。

○委員

特に……。

○委員長

特にございません。何かございましたら。全般。

○委員

計画はちょっと関係ないんですけど、このたび先ほど冒頭に今回の寒波のようにいわゆる非常事態のような状況になる、今後もこういうケースっていうのは当然出てくるんだろうと思います、危機管理ということだと思いますけども。この点について組織として恐らく対応されてると思うんですけども、民間企業ですとBCPとって、ビジネス・コンティニュイティ・プランといったようなものも、ある程度大きな工場とか、みんなつくって、災害とかこういったものに対応するというのが最近定着してきていると思うんですが、このあたりについては企業局さんはいかがですか。

○企業局

企業局独自のBCP業務継続計画は持ってありませんで、これは県全体で今基本的にできておりますのは大規模地震災害、津波災害も含めたところのBCPというのは策定して、その中にも企業局の位置づけはございます。それから、現在ちょっと策定の作業中でございますけども、原子力災害についてのBCPのところは、今作業のところで動いております。

先般、寒波による影響あったんですけども、一度にダウンするようなことではございませんので、そういったものは適時の危機管理対応ということになるかと思えます。

○委員長

ありがとうございました。それでは、何かございましたらお願いします。

○委員

そうですね、ちょっと前々から疑問に思ってたんですけども、この前見学に行きましたときに、その日のうちの1日のうちの送電を賄って電力がつけられてるということをお伺いしましたけども、蓄電っていう方向はないんでしょうか。今もう蓄電で自分のうちの電力を、電気を消費するっていうのがちょっと宣伝なんかも言われてますけども、ちょっと大きな取り組みで蓄電をして必要に応じて買電も、蓄電されれば売る先もちょっといっぱいできるんじゃないかなと思いますけども、そんなことは可能なんでしょうか。

○企業局

ちょっと専門ではないので、私が知る範囲のところはちょっとお答えしたいと思いますけれども、技術的には蓄電技術ございまして、家庭用の蓄電なんかは実はあつたりはするんですけども、実は容量に対するコストパフォーマンスといえますか、非常に現状悪うございまして、ためて使うということがなかなか今の技術レベルですとちょっと難しいというのがございまして、垂れ流しと言ったらあれなんですけども、基本的には電気は発電して即使うものというのが現状でございます。

ただ、一部の動きとしまして、これもちょっと新聞なんかでござらんになったことがあるかと思えますけども、隠岐のほうで中国電力さんが蓄電を含めた実証実験的な事業を実はしておられて、隠岐というところで、その域内で発電して使うという狭い範囲のところがございまして、そういったところにうちのほうの風力発電なんかも含めまして、全体で一旦蓄電をしてそれから使うということで、蓄電のほうも短期的な蓄電の要素と、ちょっと長期の蓄電の2つのパターンを現場で用意されてて、

そういった実験をされておりますけれども、これも実際コストが相当かかるところがございます、まだいわゆる採算ベースに乗ってないというのが現状でございます。

○委員長

ありがとうございました。じゃあ最後、何かございましたら。

○委員

この前の寒波の漏水の問題なんですけども、今回の寒波による漏水はそれぞれの家庭の水道管のレベルの問題で、公共部分というか、送水管のレベルは地中に埋まっていますので寒波による影響はなかったということなんですけども、そうはいってもこれから地震等いろんな自然災害のリスクもあるので、その一方で、かなりこの企業局の管路の老朽化も進んでいくことなので、やはりさっきのBCPのお話があったんですけども、やはりこういった基幹管路の老朽化にどう対応するか、それが資本的経費にどう影響してくるか、これが長期計画の肝になると思ってますので、この経営計画をしっかりとフォロー、チェックしていってほしいと思ってます。以上です。

○委員長

ありがとうございました。

さあ、何か最後によろしゅうございますか。とてもさまざまな意見をいただきまして、ありがとうございました。途中でも出てきましたけれども、非常に企業局様に御努力していただいているというのは、多分この委員会に出席されて余計にわかったんじゃないかと思えます。また、企業局の皆さんも県民の皆様にごこういった情報をまた十分にお伝えしていただけたらというふうに思っているところがございます。企業局におかれましては、委員の御意見について十分に御検討の上、今後の企業局の業務運営に生かしていただきたいと思えます。

時間が参りましたので、本日の議事を終了したいと思います。委員の皆様方には、議事進行に御協力いただき大変ありがとうございました。これで終わらせていただきます。